



# 「ぶんせき」電子掲示板

## ホームページの運営管理

昨年本欄で、日本分析化学会のホームページの作成にご協力をいただくボランティアを募集しましたところ、複数のご応募をいただき、昨年6月にはホームページを開設することができました。以後、「ぶんせき」、「分析化学」、「Analytical Sciences」の目次や、本誌の特集と連携し記事中のサイトへのリンクなどの試みを行ってきました。また、支部や研究懇談会のページの掲載やリンク、そして標準試料のページなどを掲載してきました。しかしながら、同ページの管理運営は上記のボランティアによるホームページワーキンググループなどの献身的な協力を頼っておりました。今後、インターネットの特性を最大限に利用し、多様な情報を迅速に会員の皆様に提供して行くためにも、体制の整備が必要です。

一方、臨時委員会として学会におけるネットワークの利用を検討しておりましたネットワーク委員会は、検討結果として、常設のネットワーク委員会と、ホームページ運営小委員会の設置を理事会に提案しました。この提案を受け、理事会では本年度より、ネットワーク委員会とホームページ運営小委員会を設置することを決定し、両委員会とも活動を開始する準備に入っています。

ホームページ運営小委員会は、ホームページの作成からその掲載およびリンク作業などの運営一般を担当し、ある意味では各会誌委員会と同等な仕事を担当することになると思います。同小委員会の活動内容などに関しては、ネットワーク委員会などで検討すると同時に広く会員の皆様のご意見を取り入れて行くことが肝要だと思われます。また、ページの作成や補助、リンク作業などはネットワークを多用する必要がある作業で、ある程度の知識が必要となると考えられますので、ホームページワーキンググループと同様に委員を公募す

ることも考慮されております。今後、さまざまな局面でネットワークの利用がさらに促進されることになると考えられますので、会員への迅速な情報提供の一手段であることを常に念頭に置いて進める必要があるでしょう。

他のホームページがますますカラフルに多様になって行く中、本会のホームページは開設以来ページこそ増えましたが、フロントページはほとんど変わっていません。また長期間暫定版のままで多くのお叱りやご意見をいただいております。これも、まずホームページありき、さまざまな内容をまず掲載し提供の試みを行うことが主であったこと、保守作業をボランティアに依存していることにより、多大な時間を要する保守作業は最小限に止めざるを得なかったことをご理解いただきたいと思います。

今後、会誌をはじめ、会報や各委員会、支部、研究懇談会からのお知らせや情報交換の場としてさらに充実させて行く必要があり、運営小委員会の負担はかなりきついものと予想されます。従いまして、より使いやすいものとするためにも多くの皆様のご協力が不可欠です。ご意見やご要望と同時に、例えば会員に知らせたいページの紹介などの情報をお寄せくださるようお願いいたします。

### 「化学の広場」情報

本号で紹介する発言範囲

発言番号：317～394

期間：97/3/01～97/3/31

### 〔Q & A〕

濁度計の選択について<関連発言番号>(310), 317, 322, 327, 340, 352, 353, 354

硫黄化合物分析の検量線<関連発言番号>(302), 318, 321

BODはまだ水質汚濁に使用<関連発言番号>(244), 319

絶縁油中のPCB分析について<関連発言番号>305, 320, 325

日本分析化学会ホームページのURL

<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jsac/>

キャピラリーGCの定量性について<関連発言番号> 323, 324, 326, 343, 369, 370  
COD測定について<関連発言番号> 328, 329, 330, 334, 336, 337, 339, 342, 347, 349, 366  
キャピラリー電気泳動について<関連発言番号> 331, 333, 365, 384  
ホールピペット等の洗浄<関連発言番号> 335, 338, 344  
KBr錠剤の作り方を教えて<関連発言番号> 345, 346, 348, 350, 371, 377, 383  
シュウ酸の定量について<関連発言番号> 356, 357, 358, 363, 364  
煙の定量測定は<関連発言番号> 359, 360, 361, 392  
0付近で連続な分析法について<関連発言番号> 367  
不純物の分析方法<関連発言番号> 368, 374, 376, 378, 379, 380, 381, 382, 385  
海水中のNiの定量方法について<関連発言番号> 372, 375, 386,  
GC分析の定量誤差について<関連発言番号> 387  
GC-MSで硫化水素は検出できますか<関連発言番号> 388, 389, 394  
MS/MSについて<関連発言番号> 391

#### [タイトルサービス]

「ぶんせき」3号, 「環境と測定技術」

<関連発言番号> 362, 373

#### [その他]

機種依存文字, 1997年2月のアクティブリスト, PITTCON '97

<関連発言番号> 332, 341

#### インターネット情報

本欄本年1号で、ニューパピルスとなる可能性があると言われているPDFファイルについて簡単に紹介いたしました。しかしながら、もう一つ実感がわかない、あるいはよくメリットがわからないなどのご意見がありました。事実、印刷物とPDFファイルとしてダウンロードしそれを手元のプリンターで印刷したのを見ても、**なんだ同じじゃないか**とがっかりされるケースもあるようです。印刷物と全く同じとは言いませんが、かなり近い品質のものがそれもコンピュータの機種に依存しないでネットワーク経由や磁気媒体などで得られること自身が画期的なのなのですが、あまりに似ているのでかえって印象が希薄なようです。この技術に関する日本語の解説書は雑誌などの特集以外ほとんどなかったのですが、詳しい解説書が出ましたので、ご紹介しておきます。広田健一郎著「電子文書・電子出版の最終革命、PDF+Acrobatネットワーキング入門」(工学図書) 関連ホームページ (<http://www.spec-web.co.jp>) (<http://plaza4.mbn.or.jp/unit/>)

#### 日本分析化学会ホームページ改訂情報

ホームページは、開設以来ページの更新や追加を行っています。改訂情報に関しましては、ホームページ上でご案内しておりますが、こちらでも若干の

遅れがですがご案内して行きたいと思います。

第58回分析化学討論会の案内は、同討論会事務局へのリンクすることにより掲載中。

会誌関連では、新年以降各誌の表紙および目次を新しくしております。さらに、順次バックナンバーの掲載を実施しています。「ぶんせき」に関しましては、各欄ごとにタイトルをまとめて掲載しておりますが、ここに1995、1996年のタイトルを追加し、1985年以降の主要記事のタイトルを見ることが出来ます。

支部のページでは、関東支部ニュース、講演会案内を掲載し、九州支部のページへリンクを行っております。

研究懇談会のページでは、高分子分析研究懇談会のページ、ガスクロマトグラフィー研究懇談会の講演会のご案内、液体クロマトグラフィー研究懇談会のページへのリンクを行っています。

さらに、頒布中の標準試料のページを掲載し、概要から認証値まで掲載しています(下図)。



The image shows a screenshot of the Japanese Society for Analytical Chemistry (JSA) website. At the top, there is the JSA logo and the text "日本分析化学会" and "The Japan Society for Analytical Chemistry". Below this, it says "日本分析化学会の標準物質". A photograph shows several bottles of standard substances. Below the photo, there is a caption: "「LSI用二酸化ケイ素標準物質」" and a detailed description in Japanese: "LSI構造体中に微量に含まれるケイ素、トリウムによるソフトエラー対策の評価に利用できるように、ケイ素、トリウムの濃度が0.10、1.0、0.10 μg/g、各500 mg)に分けられています。本標準物質は、筑波大学原子力研究所の協力で、日本化学工業(株)が製造し、10機関の共同分析の結果に基づいて本会の標準物質委員会が認証値の決定を行いました。" The bottom of the page shows the text "「ぶんせき」誌、本欄そしてホームページへのご意見、ご要望やアイデアをお待ちしております。" and "[「ぶんせき」編集委員会]"

「ぶんせき」誌、本欄そしてホームページへのご意見、ご要望やアイデアをお待ちしております。

[「ぶんせき」編集委員会]